

Information

日本にしながら豊饒な芸術文化を目の当たりに スペインのイメージ：版画を通じて写し伝わるすがた

17世紀から20世紀までのスペインに関わる版画制作の展開を概観する本展。版画が美術メディアとして、スペインに関するイメージの形成や流布にどのように寄与したのか、ゴヤやフォルトゥーニ、ピカソ、ミロ、ダリら巨匠などを代表とした多数のスペイン版画や、それらの影響を受け英仏で制作されたものを含む約240点の作品から探る。本展の出品作は、国立西洋美術館の所蔵作品を核に全国約40カ所所で所蔵されるスペイン美術コレクションで構成されており、国内各地に所蔵されるスペイン版画の傑作が一堂に会する史上初の機会になる。今日までの日本におけるスペイン美術の受容とそれに付随した豊かなコレクション形成の様相も浮き彫りになるだろう。

会期：7月4日(火)から9月3日(日)まで

会場：国立西洋美術館（東京都台東区上野公園 7-7）

開館時間：9：30～17：30、金曜・土曜日 9：30～20：00

（入館は閉館の30分前まで）

観覧料：一般 1700円、大学生 1300円

休館日：月曜日、7月18日(火)（ただし、7月17日(月・祝)、
8月14日(月)は開館）



ラモン・カザス《「アニス・デル・モノ」のポスター》1898年、カラー・リトグラフ、国立西洋美術館蔵。

細胞から育てたミートが食生活を変える？ ミート・ザ・フューチャー 培養肉で変わる未来の食卓



実験で作成した培養肉を試食する開発者ら
© 2021 LIZMARS PRODUCTIONS INC.

上映期間：6月9日(金)より

YEBISU GARDEN CINEMA、アップリンク吉祥寺他

監督：リズ・マーシャル

配給：アップリンク

本作は、地球規模の課題である食料危機や環境問題を解決策の一つとして、日本でも話題になりつつある「培養肉」の開発に挑む人々を描いたドキュメンタリー。「培養肉」とは、動物の細胞から肉を「育てる」食品テクノロジーで、元心臓専門医のウマ・ヴァレティ博士が CEO を務めるアメリカのベンチャー企業「アップサイドフーズ（旧メンフィスミート）」が、この技術を利用した培養肉の商品化を目指している。世界が注目を集める次世代テクノロジーの登場で、私たちは持続可能な社会の実現へと一歩近づけるか。